

# 会 議 録

## 第9回定例会

開会 令和元年8月2日

## 教育委員会会議録

1 開 会 令和元年8月2日 午後2時30分

2 閉 会 令和元年8月2日 午後3時40分

### 3 教育委員会出席者

教育長	美馬 持仁
委員	辻 貴博
委員	藤本 宗子
委員	小林 信行
委員	河口 雅子
委員	菊池 健次

### 4 教育長及び委員以外の出席者

教 育 次 長	儀宝 修
教 育 次 長	竹内 敏
教 職 員 課 長	中野 敏章
学 校 教 育 課 長	小倉 基靖
グローバル・文化教育課長	小林 恭子
教 育 政 策 課 長	長町 哲治
教 育 政 策 課 副 課 長	中野 義英

[開 会]

教育長 定例会を開会する旨を告げる。

[会議録の承認]

教育長 配付されている会議録を承認して差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 会議録を承認する旨を告げる。

[議 事]

教育長 報告事項1を非公開として差し支えないかを各委員に諮る。

各委員 異議なし。

教育長 そのように取り計らうこととし、議事に入ることを告げる。

《報告事項2 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査について》

教育長 報告を求める。

学校教育課長 内容等を報告する。

〈質 疑〉

辻委員：今回の提供された結果は問題ごとに出るのか。また、その場合、学校ごとに結果は出ているのか。

学校教育課長：県の結果は、問題ごとに出ている。各学校においても、問題ごとの結果が提供されている。

辻委員：学校ごとに状況が異なるので、それぞれの学校ごとに対策を立てることが必要になるのではないか。

学校教育課長：実際、その点が重要であり、昨年度も各学校で分析を行い、正答率が全国平均を下回る問題について、その問題を解くことができるために必要となる力を育成することを各学校にお願いしている。ただ、各学校の検証が授業改善まで進んでいないという現状もあり、今後もこの点についてはお願いしていきたいと考えている。

河口委員：結果公表の時期が早まったことで、夏休みの間に詳細な分析をすることができ、例えば全教職員で実際に問題を解くことで、それをそれぞれの授業

でどう生かしていくことができるかというような研修をとっていただくということも大切だと考える。根本として大切なのは、どのような授業をしていくかであり、授業づくりについて研修を行うことが重要である。だから、各校でしっかりと分析を行っていくが、最終的に教師が目の前の子供に必ず力をつけるというような熱意を持つことができるかが大切になってくると考える。確かに、文章を読んで、考え、答えるのは難しいことだと思うが、地道な取組を継続することが大切であり、一方、基礎的な内容の理解については、予習をどうさせるかなどの工夫も大切になると考える。他県ではキャッチコピーなどを効果的に活用し、全県で取り組んでいると思うが、本県でもそのような取組を行っていただきたい。

学校教育課長：昨年度も、各学校において全国調査の結果分析を行い、2学期からの取組に生かしていただいているが、その具体については各教員や管理職に任せている。今年度の学校への質問紙の中にあつた、全国調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために活用したかという問いに対して、本県の回答のうち、「よく行った」という回答の割合が全国よりも10ポイント程度低い結果があり、結果を授業改善に生かしていくことができるよう、鳴門教育大学との連携を活用しながら、進めていきたい。

藤本委員：英語はこれまでの地道な努力の成果が出ており、大変素晴らしいことである。国語や英語で自分の意見を表現することが不得意ということだが、それらについても今後も取り組んで欲しい。そこで、鳴門教育大学との連携とは具体的にはどのようなことなのか、また、他の大学の力を引き入れての取組等は考えていないのか教えて欲しい。

グローバル・文化教育課長：今回の結果については、授業改善を含めこれまでの様々な取組の成果だと考えている。特に、今回の質問紙調査の結果において、「英語が好き」と答えた生徒の割合は、全国平均を上回っていた。自分の意見を表現することは全国的な課題であり、本県についても同様の結果となっており、個々に課題があると考えている。また、各大学との連携については、これまでも様々な点でお世話になっており、今後とも学力や英語力の向上のため、協力をいただきたいと考えている。

小林委員：各学校によって対応の差があるのではないか。学校によって、学力向上についての対応が変わるとするのは、子供たちにとって不公平な状況となるのは良くないことだと考える。県の方から市町村教育委員会へ、調査を行

い、現状について回答を求めるなどをして欲しい。

学校教育課長：子供たちの多くは、近くの小・中学校へ通っており、県民全体の公平性を担保するためにも、市町村教育委員会としっかり連携して状況について回答をもらうなどチェックについては確実に実施していく。ただ、学校の状況にはかなりバラツキがあり、それぞれの諸状況についてもできるだけ把握に努め、丁寧に対応をしていきたいと考えている。学校の状況によって、支援が必要な場合は県教育委員会としてもできるだけことをしていきたいと考える。

小林委員：今年度の調査を受けた中学校3年生の生徒は小学校のときはどうであったか教えて欲しい。

学校教育課長：平成28年度の小学校6年生の児童が今年の3年生であり、そのときは、A、Bの問題に分かれていたが、やはり、活用タイプの問題は全国平均を下回っていた。

教育長：順位だけを見ると、今回からA、Bがなくなったが、実際にはBの問題である活用タイプの問題が多く出題されており、これまでも本県の子供たちはこの活用タイプの問題が得意ではなかったことが大きかったと考える。

河口委員：文理大学でも、学生がボランティアとして、各校のサポートを行っている。そのような手立てこそが学力の向上につながるものであり、活用を考えてもいいと思う。また、A、Bの一体化の1年目であり、その辺りの対応をしっかりと行って欲しい。

学校教育課長：A、Bの一体化について、特に活用タイプの問題については従前より平均正答率が低いということは認識しており、これまでも取組を行ってきたのはいたものの、さらに、しっかりと検証し、今後の対応をしっかりと行い、授業改善を進めていきたいと考えている。

河口委員：そこが重要であり、一人一人の学力の向上を図って欲しい。

菊池委員：小中学校とも30位台ということで、学校の先生方は努力はしていると思うが、どこにいても子供たちが同じサービスを受けられることが重要であり、各先生方にはしっかりと問題意識を持ってもらうとともに、それらの努力が周りに見える努力をして欲しい。

教育長：今回の学力調査の問題はこれまでと質も変わっており、今後学力・学習の方向性が示されており、これらの問題を解くことができる力がこれから求められる力という認識を教師一人一人が持つことが大切だと考えている。試験のためにはではなく、子供たちにとって将来必要となる力のバロメータとしてこの問題を目安としてほしい。調査は小学校6年と中学校3年で実施しているが、幼稚園を含め小学校低学年から継続した取組のために全ての先生方がこ

の結果を大切にしたいと考えている。結果に一喜一憂するのではなく、徳島県の課題として見えてきた、結果が安定しないということと、活用力や応用力に課題があるということをしかりと捉え、大きな方向性を示す必要があると考えている。そこで、鳴門教育大学と連携し、県教育委員会からの方針を出していくことを考えており、2学期からの各学校での実践に活用してもらおう予定である。

[非公開]

《協議事項1 職員の処分について》

《報告事項1 令和2年度徳島県公立学校教員採用候補者選考審査第1次審査について》

[閉会]

教育長 本日の議事が全て終了したので閉会する旨を告げる。

閉会 午後3時40分